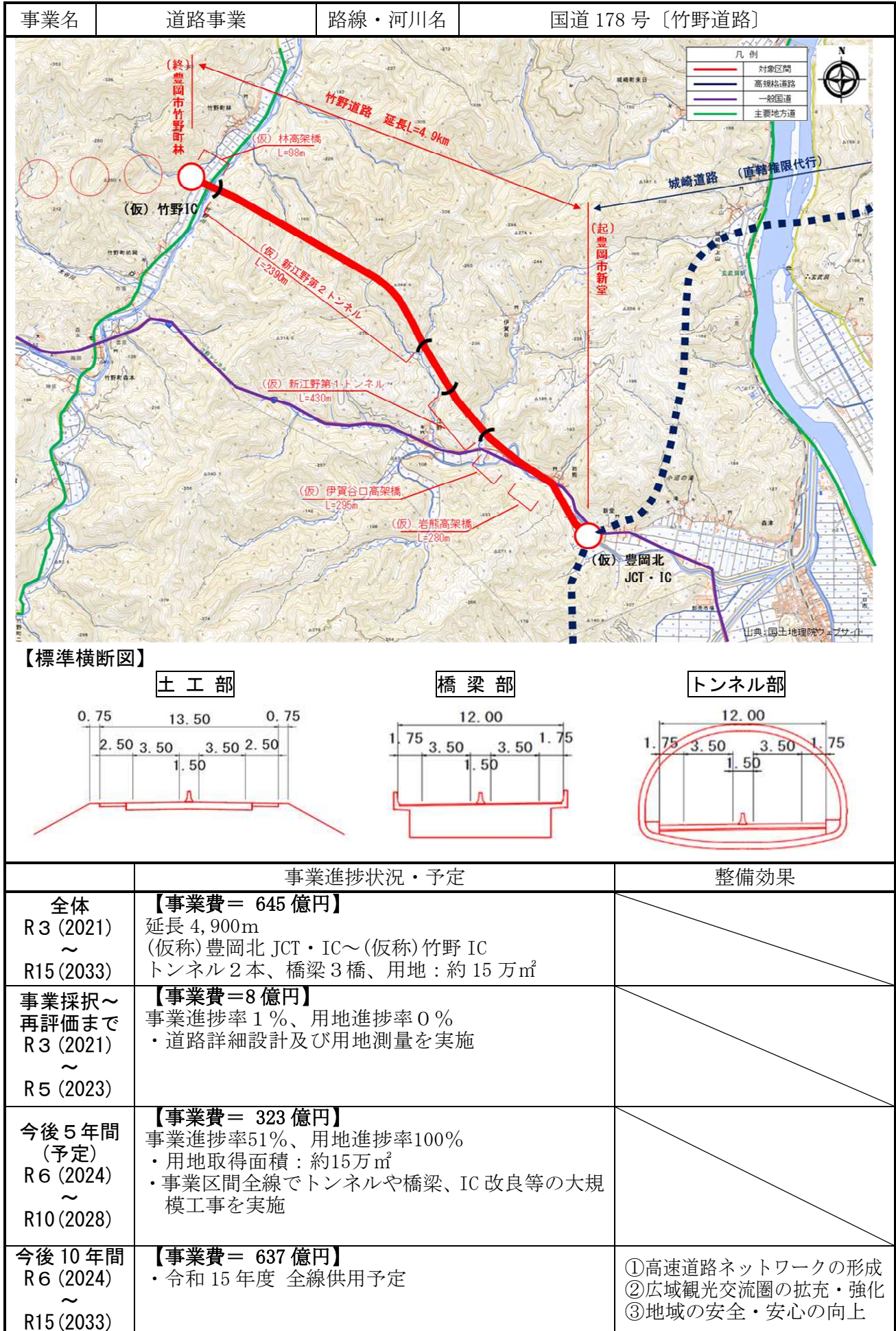


令和5年度 投資事業評価調書（継続：再評価）

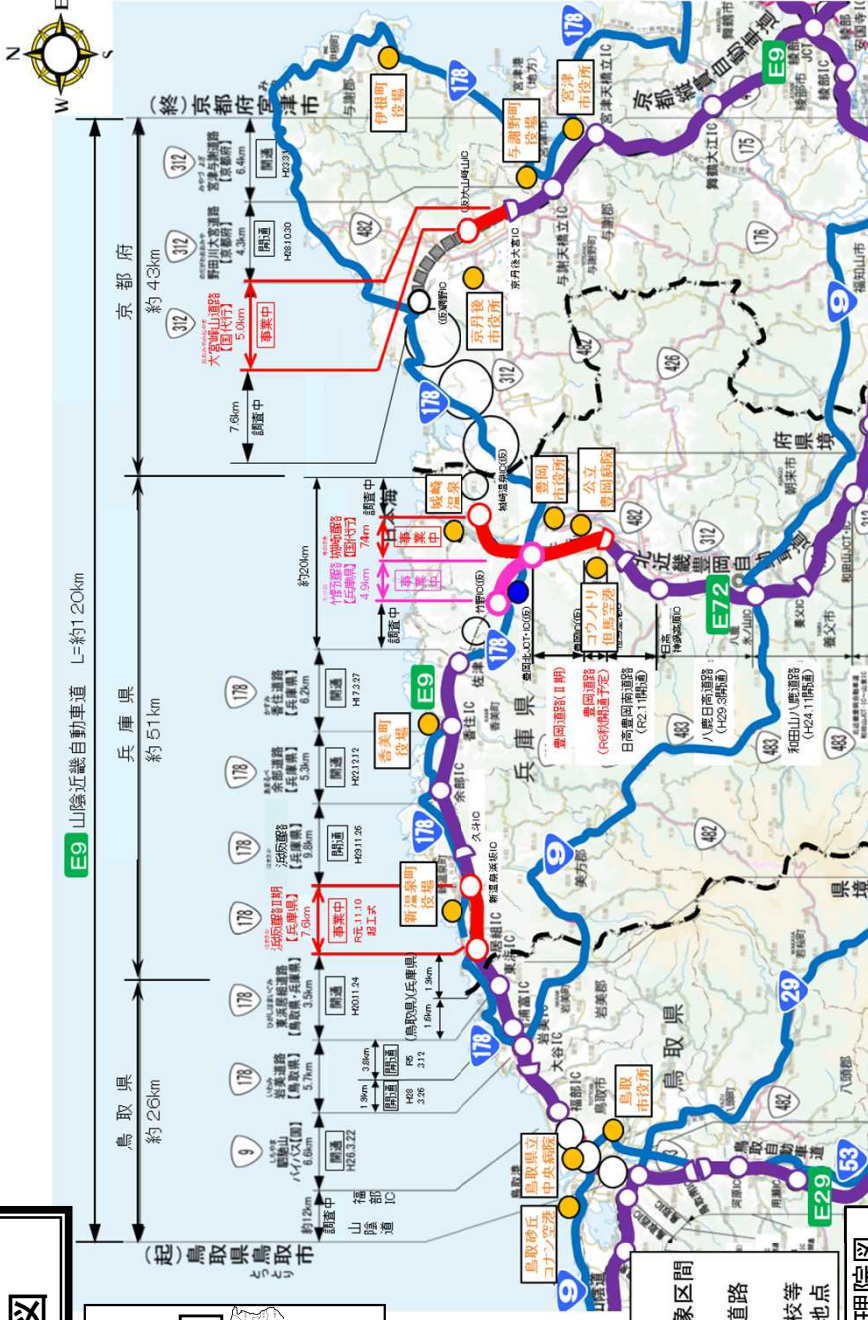
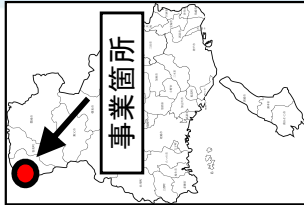
部課室名	土木部道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 志茂 大輔 (国道・橋梁班長 吉田 頼彦)	内線	4362 (4378)
事業種目	道路事業	新規評価年度	令和2(2020)年度	現計画	新規評価時点
事業名	国道178号 〔竹野道路〕	事業採択年度	令和3(2021)年度	総事業費	645億円
		着工年度	令和3(2021)年度	内用地補償費	約4億円
事業区間	豊岡市新堂～竹野町林	完成予定年度	令和15(2023)年度	令和12(2020)年度	令和12(2020)年度
		進捗率 (用補進捗率)	1% (0%)	0% (0%)	
		残事業費	637億円	380億円	
事業の目的			事業内容		
<p>本路線は、基幹道路八連携軸の日本海沿岸軸として、環日本海地域の交流を強化し、広域高規格道路ネットワークを形成する山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）の一部区間である。</p> <p>○高速道路ネットワークの形成 日本海側の高速道路網のミッシングリンクを解消し、北近畿豊岡自動車道、鳥取自動車道とともに国土のリダンダンシーを確立する。</p> <p>○広域観光交流圏の拡充・強化 山陰海岸ジオパークをはじめとする広域観光交流圏の拡充・強化、交流人口の拡大を図る。</p> <p>○地域の安全・安心の向上 豊岡病院（3次救急医療病院）へのアクセス性向上により、地域の医療環境の向上を図る。</p>			<p>【延長】 4.9km</p> <p>【構造規格】 第1種第3級</p> <p>【幅員】 車道7.0m〔全幅13.5m〕〔代表断面〕</p> <p>【計画交通量】 6,800台/日〔R22予測〕</p> <p>【現況交通量】 自動車：12,992台/日〔R3センサス〕</p> <p>【負担割合】 国：55% 県：45%</p>		
事業を取り巻く 社会経済情勢 等の変化	<p>令和5年4月に城崎道路（仮）豊岡北JCT・IC～（仮）城崎温泉IC）が直轄権限代行により事業化された。</p> <p>【新規評価時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】</p> <p>①城崎道路がR5に直轄権限代行により事業化されたが、直轄権限代行の範囲外となった（仮）豊岡北JCT・IC内の城崎道路へ接続するランプが追加となり、工事費が約250億円増額する。</p> <p>②建設資材価格や労務単価の上昇を受け、必要経費を計上するため、約15億円増額する。</p> <p>③上記①により、増加した工事の施工に3年を要するため、完了年度を令和15年度に変更する。</p>				
進捗状況	<p>【用地】 令和3年度より詳細設計に着手し、令和5年度より設計が完了した箇所から用地測量に着手。令和6年度より用地契約を進めていく予定。</p> <p>【工事】 令和6年度より用地契約完了した箇所から順次、工事に着手予定。</p>				
評価視点	評価結果の説明				
審査会意見及び対応方針（R2年度新規評価）	【審査会意見】 「事業着手は妥当」である。		【対応方針】 早期完了に向け、事業推進に取り組む。		
(1) 必要性	<p>①日本海側の高速道路網のミッシングリンクを解消し、北近畿豊岡自動車道と鳥取自動車道のダブルネットワークの形成により、大規模災害発生時の緊急支援物資の輸送ルート確保や災害復旧の迅速化など、災害に強い日本海国土軸を形成する。</p> <p>②山陰海岸ジオパークをはじめとする多様な観光拠点・観光資源へのアクセスを向上させることにより、広域観光交流圏を拡充・強化して、交流人口の拡大を図る。</p> <p>③本道路の整備により、豊岡病院（3次救急医療病院）へのアクセスの向上を図り、地域の医療環境を充実させる。</p>				
(2) 有効性・効率性 (執行環境状況)	<p>①山陰近畿自動車道の県内区間（約51km）のうち、佐津ICより東側約20kmについては未開通である。本道路を整備することにより、令和2年度に事業着手した北近畿豊岡自動車道の豊岡道路（Ⅱ期）と接続することとなり、北近畿豊岡自動車道から山陰近畿自動車道、鳥取自動車道への高速道路ネットワークの形成につながる。</p> <p>②完成後の現道の管理引継について、豊岡市と協議が整っている。</p> <p>③豊岡道路（Ⅱ期）、城崎道路と同時期に事業を行うことで、豊岡北JCTの一体整備が可能となり効率的なJCT整備が可能となる。</p> <p>④費用便益比B/C=1.2*（前回評価時B/C=1.8） ※山陰近畿自動車道（宮津天橋立IC～鳥取西JCT）路線全体で分析を実施</p>				
(3) 環境適合性	<p>①絶滅危惧種の生息域を避けてルート決定する等環境保全を図る。</p> <p>②市街地の通過交通を本道路に転換することにより、大型車等による排気ガスや交通騒音などに対する沿道環境が改善される。</p>				
(4) 優先性	<p>①基幹道路は、ネットワーク化により効果が最大限発揮されるものであり、全区間事業化している北近畿豊岡自動車道と接続する本道路を早期に事業を完了させる必要がある。</p>				
再評価の結果	継続	左の理由	事業の必要性・有効性等は事業採択時と変わっておらず、当該区間の早期供用を望む地元の声が強いため、継続して事業を実施する必要がある。		

事業進捗状況概要図（継続：再評価）



道路事業 国道178号〔竹野道路〕

位置図



目的

- ① 高速道路ネットワークの形成
- ② 広域観光交流圏の拡充・強化
- ③ 地域の安全・安心の向上

事業概要

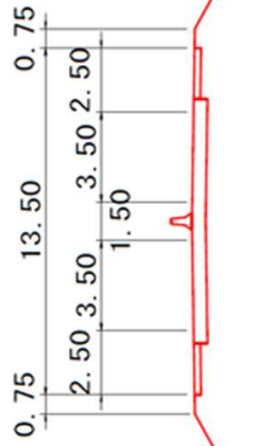
事業区間：豊岡市新堂～竹野町林
 総事業費：645億円
 内用地補償費：約4億円
 事業期間：R3～R15
 事業概要：自動車専用道路
 延長：4.9km
 費用便益比B/C:1.2(全体)※
 ※山陰近畿自動車道(宮津天橋立IC～鳥取西JCT)路線全体で分析を実施

凡例

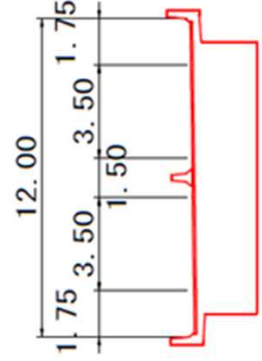
- 事業評価対象区間
- 事業中区間
- 自動車専用道路
- 国道
- 公共施設、学校等
- 交通量調査地点

出典：国土地理院図

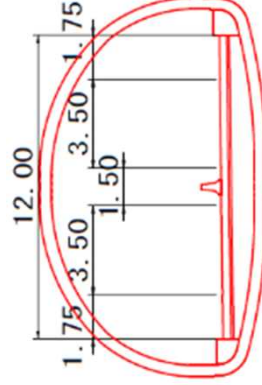
横断面図



<橋梁部>



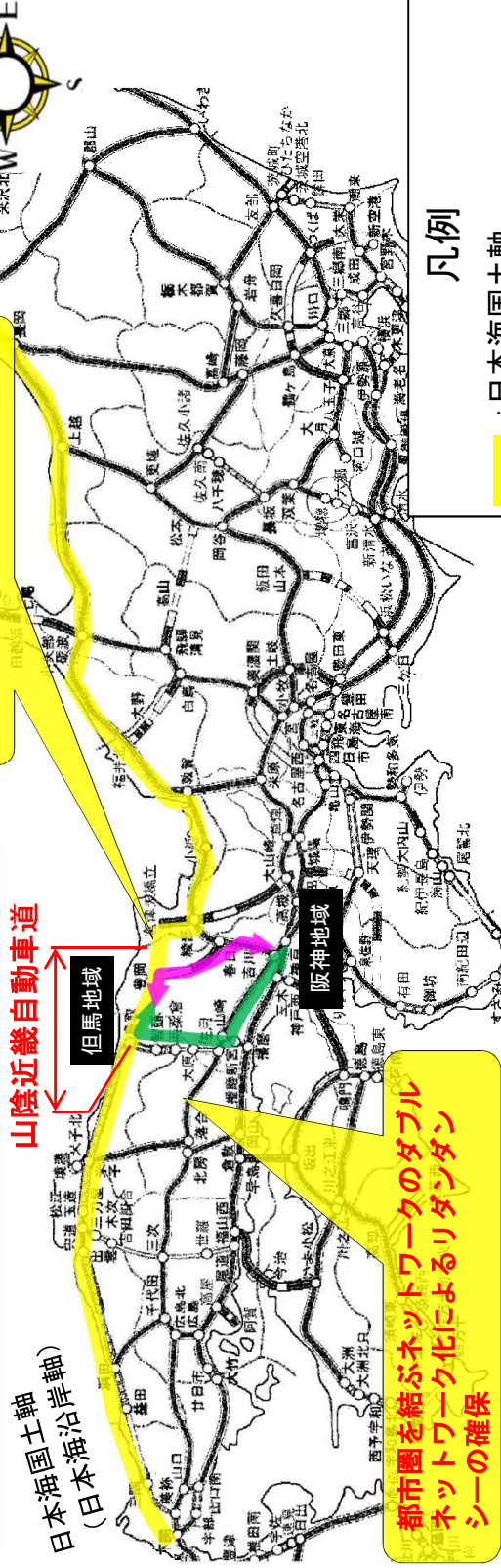
<トンネル部>



事業の必要性・優先性

①日本海側の高速道路網のミッシングリンクを解消し、北近畿豊岡自動車道と鳥取自動車道と鳥取自動車道のダブルネットワークの形成により、大規模災害発生時の緊急支援物資の輸送ルート確保や災害復旧の迅速化など、災害に強い日本海国土軸を形成する。

高速道路網のミッシングリンク解消



太平洋国土軸は災害リスクが高い。
(南海トラフ巨大地震、東海地震、首都直下型地震)

高速道路網のミッシングリンクを解消

山陰近畿自動車道

但馬地域

都市圏を結ぶネットワークのダブルネットワーキングによるリダンダンシーの確保

凡例

- 日本海国土軸
- 北近畿豊岡自動車道(+舞鶴道)
- 鳥取自動車道(+中国道)

現況写真

①道路防災点検箇所

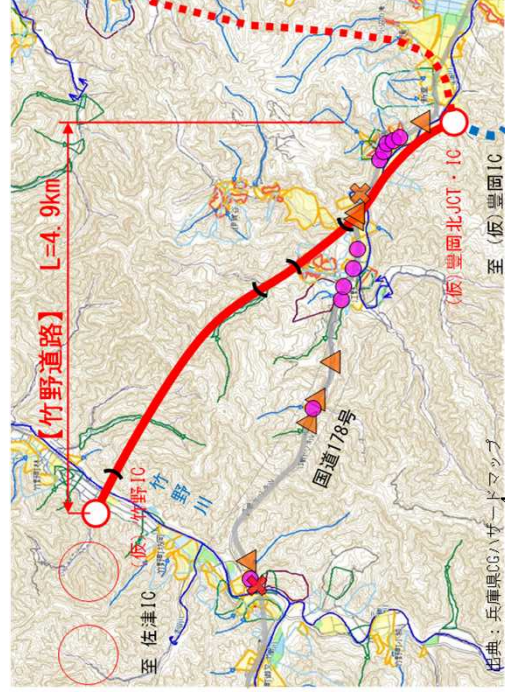


②降雪時の通行不良



現道の課題解消

- ・国道178号は緊急輸送道路・緊急交通路であるが、道路防災点検箇所(7箇所)、土砂災害警戒区域(11箇所)、浸水想定箇所(1箇所)が存在
- ・積雪寒冷地であり、降雪時の通行不良が発生
- ⇒竹野道路の整備により、災害に強い安全な交通を確保



✕	通行止め箇所	○	土砂災害警戒区域
▲	道路防災点検箇所	■	土砂災害特別警戒区域
✖	浸水想定箇所	■	0~0.5m未滿の区域
●	土砂災害警戒区域	■	0.5~1.0m未滿の区域
		■	1.0~2.0m未滿の区域
		■	2.0~3.0m未滿の区域
		■	3.0~4.0m未滿の区域
		■	4.0~5.0m未滿の区域
		■	5.0m以上の区域
		■	浸水想定検討対象河川
		■	崩壊土砂流出危険区域
		■	山腹崩壊危険区域
		■	土石流危険渓流
		■	土砂災害警戒区域
		■	地すべり危険箇所
		■	雪崩危険箇所

事業の必要性・優先性

- ②山陰海岸ジオパークをはじめとする多様な観光拠点・観光資源へのアクセスを向上させることにより、広域観光交流圏を拡充・強化して、交流人口の拡大を図る。
- ③本道路の整備により、豊岡病院(3次救急医療病院)へのアクセスの向上を図り、地域の医療環境を充実させる。

広域観光交流圏の拡充・強化

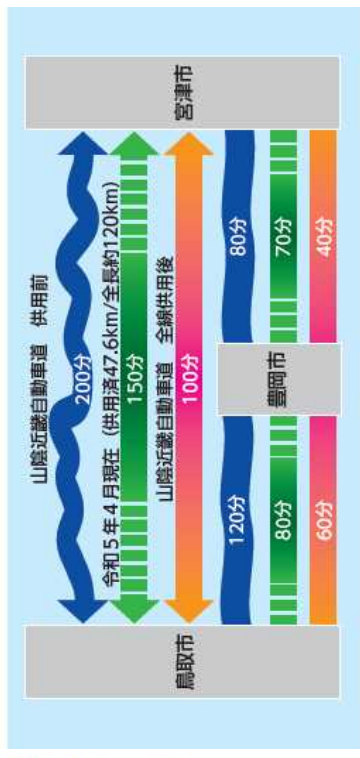


天橋立



山陰近畿自動車道の時間短縮効果

山陰近畿自動車道の整備により、山陰海岸ジオパークエリアの鳥取市～宮津市間の移動時間が半分に！(100分短縮)



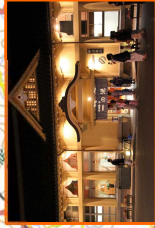
鳥取砂丘



湯村温泉



城崎温泉

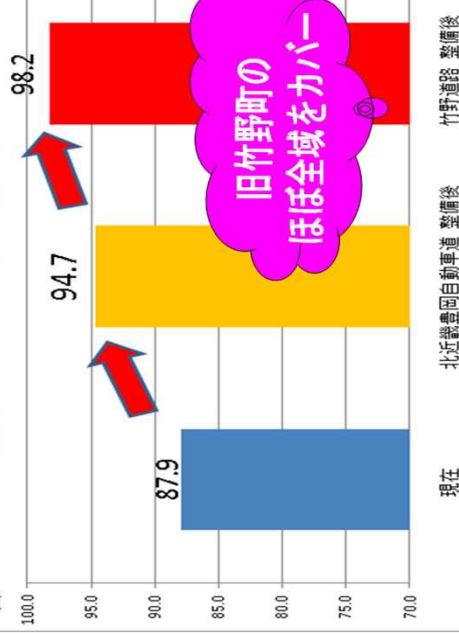


地域の医療環境の向上

- ・豊岡病院(3次救急医療病院)へ30分以内に搬送される旧竹野町内の人口カバー率が98.2%に拡大
- ・高いレベルの救急医療サービスを受けやすくなり、地域によって受けられる医療の格差を改善



30分圏域人口カバー率(旧竹野町域)

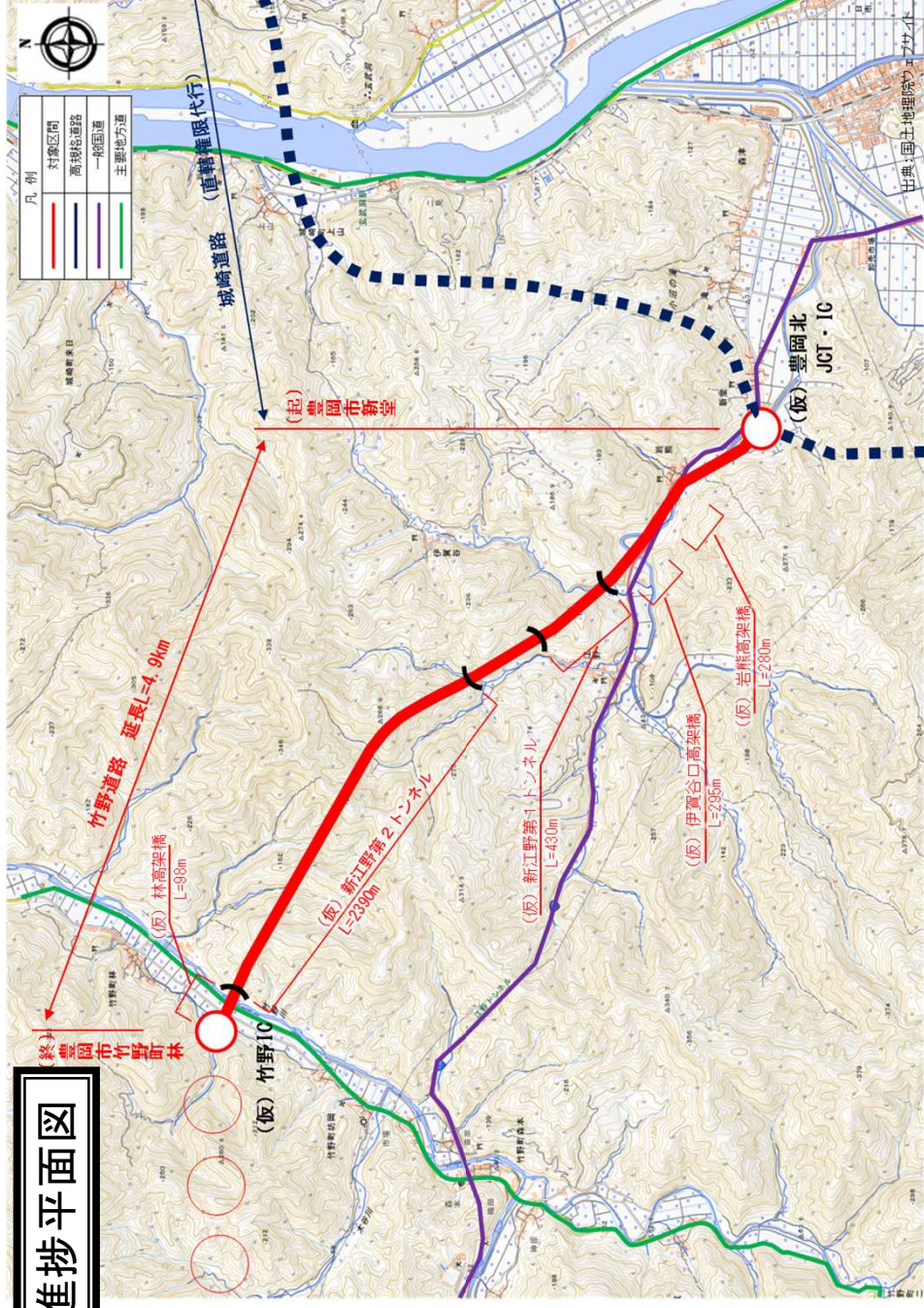


旧竹野町のほぼ全域をカバー

- 北近畿豊岡自動車道、竹野道路開通前の30分圏域
- 北近畿豊岡自動車道開通による30分圏域の広がり
- 竹野道路開通による30分圏域の広がり
- 地域高規格道路(供用中)
- 地域高規格道路(調査中)
- 高規格幹線道路(事業中)

進捗状況

事業進捗平面図



現況写真

① 現地踏査状況



② ボーリング調査



工程表

■ : 前回計画
■ : 実施・計画

工種	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
調査・設計		■	■										
用地補償			■	■									
道路改良工事					■	■	■	■	■	■	■	■	■

③ 事業説明会の状況



事業の有効性・効率性

(1) 費用対効果

① 便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
① 走行時間短縮便益 ○ 目的的地までにかかる時間が短くなることによる便益	整備無しの走行時間費用－整備有りの走行時間費用 走行時間費用: $\Sigma(\text{交通量} \times \text{走行時間}) \times \text{時間価値原単位} \times 365\text{日}$
② 走行経費減少便益 ○ 交通の流れがスムーズになり燃費などが向上することによる便益	整備無しの走行経費－整備有りの走行経費 走行経費: $\Sigma(\text{交通量} \times \text{距離}) \times \text{走行距離原単位} \times 365\text{日}$
③ 交通事故減少便益 ○ 交通事故が減少することによる便益	整備無しの事故損失額－整備有りの事故損失額 事故損失額: $\Sigma(\text{交通量} \times \text{距離} \times \text{交差点} \times \text{交差点以外の事故損失原単位} + \text{交通量} \times \text{主要交差点数} \times \text{交差点事故損失原単位})$

② 費用便益費(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)				代表的な効果	C(費用)			B/C	
		便益額(億円)					総費用(億円)	事業費(億円)	維持管理費(億円)		更新費(億円)
道路事業	道路改築事業 国道178号 竹野道路	走行時間短縮便益	6,550			計画交通量 6,800台/日	6,037	5,663	348	26	1.2
		走行経費短縮便益	773								
		交通事故減少便益	141								
		計	7,464								
		走行時間短縮便益	978								
	※宮津天橋立IC～鳥取西JCTを対象	走行経費短縮便益	78			計画交通量 6,800台/日	1,727	1,637	90	-	0.6
		交通事故減少便益	14								
		計	1,070								

(2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点		効果項目	該当する事業内容等
①安全・安心の確保	災害時	緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 (緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路の整備) 救助・救援活動の支援 (災害時の通行不能や孤立集落の解消) 減災対策への取組み (二線堤道路、避難路・避難場所としての機能、延焼防止機能の確保)	○ 北近畿豊岡自動車道、鳥取自動車道とともに国土のリダンダンシーを確保 ○ 北近畿豊岡自動車道、鳥取自動車道とともに国土のリダンダンシーを確保
	平時	救急医療体制の支援 交通安全対策 地域間交流の促進 中心市街地の活性化 地域産業の活性化 観光支援 地域プロジェクト等支援	○ 第三次救急医療施設へのアクセス性の向上 ○ 通過交通の転換による歩行者・自転車の安全の確保 ○ 高速道路ネットワークの形成による交流人口の拡大 — ○ 高速道路ネットワークの形成による広域観光交流圏の拡充・強化 ○ 高速道路ネットワークの形成による広域観光交流圏の拡充・強化 —
③円滑な交通体系の確保		公共交通機関利用の促進 交通結節機能の向上	—
④地域の環境改善		沿道環境の改善 景観形成	○ 通過交通が転換されることによる騒音・排気ガスなどの沿道影響の改善

(3) 地域からの要望状況等

要望状況等	<p>①豊岡市、地域住民による事業用地取得の協力など地域の協力が整っている。</p> <p>②事業説明会の開催などを通じて、地元と十分に連携を図り事業を進めている。</p>
-------	--